

「川上村の農業に学ぶ」と

高原野菜の産地へ

去る8月4～5日、「千葉県町村長現地研修会」が長野県南佐久郡川上村で開催され、小さくてもキラリと光る村づくりの一端に触れることができました。

川上村は、日本有数の高原野菜の産地です。最低気温マイナス25度、最高気温30度、平均気温8.5度で、一年の半分が雪や霜に覆われてしまう、自然環境の非常に厳しい地域です。そして、人口4,050人のうち6割が農業従事者という、農業を基幹産業とした、小さな村です。

耕地面積1,800ヘクタールを耕し、そこにレタスやサニーレタスを栽培する二期作の作付けで、実に夏場の27%、春秋の12%の全国シェアを占めています。2014年度の村全体の売上額は約180億円で、農家戸数が530戸、これを単純計算すると1戸あたりの販売額は3,300万

円ということになります。経費が50%になりまますので、約半分弱が農家収入ということになります。トラクターもすべて外国産の大型で、村全体で2,000台所有しているとのこと。さらに農業後継者はすべてUターンで、平均就農年齢が29～30歳、若さに満ちた村の勢いを感じました。

川上村は、1年の半分が雪や氷で野山が真っ白の状態。さらに春から秋にかけては地温を上げないため、そして雑草を抑えるために、真っ白なマルチのビニールで一面が覆われます。

出荷の時期は、朝2時頃からサーチライトや発電機を照らし、収穫をします。明るくなると農協に出荷し、すぐに5度に冷却して、全国各地へ配送されます。

藤原村長は、ブランドとしてのレタスが誕生した経緯を振り返り、「過酷な環境のなかで、これまでさまざまな事に挑戦してきましたが、今では、『東京から遠くてよかった、自然が最も厳しくてよかった』と思っています」と語ってくれました。



町長

相川勝重

これからの農業

どう村を守り、食べていくのか、その選択肢が多くあるわけでもなく、おのずと高原野菜の産地作りを学び、それぞれ知恵を出し合ってきた川上村。時期にない良いレタスは大きな市場として取引され、今ではどこからでも、どこへでも保冷のトラックで配送が可能となりました。

私たちは、いつでもなんでも栽培できる素晴らしい地域で生活しています。どうしたら農業で生活が成り立つのかも一度さまざまな視点から農業を捉え、多くの方々から知恵や力をお借りし、地域や農業を守り、発展させてまいりたいと存じます。



一面ビニールに覆われた白い畑

第51回 町民体育祭 日時 10月11日(日)
場所 総合運動場

教室の窓から 121 こんにちは

いとう まさこ
芝山中学校 <特別支援学級担任・音楽科> **伊藤 昌子** 先生

- Q ▶ 子どもの頃の思い出**
A ▶ 自転車が大好きで、学校から帰ると友達と一緒に自転車に乗って遊んでいました。
- Q ▶ 教員を目指したきっかけ**
A ▶ 中学生の時、初任だった音楽の先生から、合唱を通して音楽の素晴らしさを教えていただいたことです。
- Q ▶ 生徒たちの魅力**
A ▶ 一人一人が無尽の力を秘めていて、中学校の3年間で大きく成長していくことです。
- Q ▶ 挑戦してみたいこと**
A ▶ 「パラグライダー」。いつか空を飛んでみたいと、ずっと思っています。



好きな言葉

「本気」

本気でやれば、必ず何かが見えてくるからです。

教頭先生EYE

芝山中学校は2度目の勤務の伊藤昌子先生。本年度、山武市立成東中学校から異動してきました。特別支援学級担任と音楽の指導に日々取り組んでいます。音楽では、7月の歌声集会和10月23日の合唱祭に向けて、合唱指導に力を入れていただいています。生徒たちの本気の歌声を引き出す情熱ある指導で、一人一人の成長を願って頑張っています。

次回は芝山小学校「鈴木ひろみ」先生が登場



- ☆歌がとっても上手!
- ☆若くて美しいです。
- ☆三代目J Soul Brothersが大好きです。
- ☆ピアノの演奏が素晴らしい!
- ☆パーマがステキです!



8月1日 千葉県内のご当地キャラクター大集合inフクアリ



千葉市のフク電子アリーナで開催されたイベントに参加したよ。県内のキャラクター同士でPK対決。シュートを決めたッコ!

8月11日 ゆるキャラグランプリ2015出発式



グランプリに出場するキャラクターが勢ぞろいして、千葉県庁で出発式をしたよ。ほくも出場するから、みんな応援よろしくッコ。

